

科講義位を、十分研究されましたら大抵よからうとは存じますけれどもたゞ地方の自習者にとつて最も不便なのは語學で御座います。御地の中學にも、只今では相當の英語教師があらうとは存じますが、高等英語の研究は當地か、神戸、長崎、横濱、大阪とか云ふ處でなくつては十分とはいへません。又第二外國語として獨逸語が明年から高等豫科の必修科となりますから、その邊も御自習はいかゞかと案じられます。然し英語の方は御地に相當の學力の人も御座いますのでせうし、獨逸語も極く初歩ですから、それも可成の教師が御座いますればよからうと存じます。その邊は御地の事情次第と存じます。入學試験を受けて一躍本科に入る生徒も毎年二人や三人はあるさうです。

第二案の方は、見込があると言へばあり。無いと言へば無く、一つは運です

随分無理な苦學の成功した例も澤山ありますし、又その爲めに、方針を錯り或は病氣になつて挫折した例もあります。在學中に小説や美文などの原稿を賣り、或は教師の編輯物を手傳つたりして修學する秀才も文科の方には、たまさかありませけれども、政治科法律科では、それも比較的不便かと存じます。その他は家庭教師、翻譯もの、下書、寫字書生(食客)などですが、これ等は縁故次第のもので御座います。國によつては、舊藩主の手で若干名の獎學給費生や貸費生を養つてゐるものもあります。情實の不公平、被給者の忘恩、學費の増大などの理由で、追々振はなくなつてゐます。我が縣のも一寸取調べてみましたが、只今は中絶の有様です、要するに第一案は御地に於ける外國語教師の有無如何によつて決せられませうし、第二案は運を天に任せ、斃れて後已むの大

決心を以て決行するか否かの問題に歸しませう。三月までには、まだ日數もあることですから十分御考へおきを願ひます。

小生の方でも尙取調べまして及ばず乍ら御力添へを致します。併し何れにもせよ、健康が資本ですから此の上は御子息様身體の御鍛錬が第一と存じます。折角の御尋ねに、十分満足の御返事を差し上げられませんで残念に存じます。國産の干柿を澤山頂戴致しまして有難く御禮申上げます。同國の學友ども打ち寄りまして、久々で賞味致しました。奥様増夫君を始め皆々様へよろしく御傳へ下さる。(書翰文講話及文範)

【作例】 僕の一月月の経費は御恥かしいが參拾五圓づゝだ月謝が七圓、食住費で貳拾八圓、後の小遣は月々九圓程で不足分は僕が内職をして満足して居

る。學生と言つても段々あつて、月々百貳拾圓位費ふ者もあり。六拾圓位のものも有り一錢も國許より送金を受けない者も居るから其の本人の心次第で金額の多小が定まるものだ、建築家が希望なれば、田舎の工業學校もよいがどうしても大都會の工業學校がよいと思ふ。何故なれば、地方に於ては見る事の出来ない各種類の建築物や、大規模のものも多く有るから見學の便、研究の便、共に地方の追隨を許さない。出來得るならば大都會で修學するがよからう。

○御照會になつた外語は今東京に四校ある内二つは官立で後二つは私立である。経費は一月月四拾七圓位が普通だ、入學試験程度は金刺書店の「専門學校入學試験問題集」と「全國中等學校入學試験問題集」があるからよく研究するが

よい。
 永年の希望が實現されるのだから嬉しいだらうが、充分落着いて熟考の上總てを決せられんことを衷心希望するどうか皆様へもよろしく御傳へが願ひ度
 い。

住所を問合はす

寒氣殊の外烈しく相成りましたが、皆様には相變らせられず御壯健で御座いますかお伺ひ申上げます。私も上京後は幸ひにも事業も日増しに隆昌に向ひ店務に追はれ勝ちで、朝五時から働きますので、夕食後はすぐ寝て仕舞ひますので、寔に申譯のない御無沙汰を致しまして悪しからず御許し下さい。扱て面目無い話ですが、頃日弟様から臺灣の支店詰となられました御通

知を戴いたのですが、何處へ藏ひましたかどうしても見當りませんので御忙がしい處を御迷惑とは存じますがどうか、弟様の御住所詳しく御知らせ下さいませんか、實は少々御伺ひ致し度い事がありますので折入つて御願ひ申上げます。先は御無沙汰の御詫び旁御尋ねまで。

【作例】甚だ御面倒な御願ひですが、畑先生は近頃何處に御住ひでせうか先日途上で先生に御目にかゝりまして詳しく承はりましたのですが、途上の事で控へ書きも出來ず明らかに記憶致して居りませんので、御存知でしたら御教へ下さいませ。

先は右亂筆乍ら御願ひ申上げます。

〇××君の近情御承知でないか實は一昨日富山地方裁判所検事の職にある僕の

友人からX君と同姓同名の人が背人横領罪で富山區裁判所に拘禁される事となつたが同君では無いかと問合せが来たのだが、まさかX君はそんな大膽な事をする人の様にも思へ無いが、同君の近情を僕は少しも知らないので半信半疑で居る。君は同君とは取り分け御親密な間柄だつたから同君の近情が判つて居たら聞かせて呉れ無いか……

面會の日時を問合せ

其の後は意外の御無沙汰を致しまして、申譯も御座いませぬ、皆さん御變りも有りませぬか、扨て先月初め御話し致して居りました薬草販賣株式會社設立に就て近日中に、是非一度御目にかゝつて、御教示に預り度い事が御座いますので、御多忙の御身御都合のよろしい、日時場所御指圖下さいませれば誠に有

難う存じます。

【作例】 今度苦學生養成を目的とする。力行社なる團體を組織する事になりましたそれに就て、是非とも貴下の御應援を願ひ致し度いのですが、一度御拜眉の上委しく御話しが致し度いと思ひますので、甚だ失禮ではあります

が、御都合のよろしき御日取御一報下さいませれば、光榮に存じます。
○先月末上京致しまして、未だに遊んで居ります。一度歸國仕様と思ひますので御目にかゝり度いと思つて居ります御多忙の中を恐れ入りますが、御都合のよろしき日を御指圖下さいませれば、私の方から御伺ひ致します、先は右御伺ひまで。

○毎々御親切に御教へ下さいまして有難う存じます。就ては今回御文意により

まして、来る廿五日上京致さうかと思ひまするが、何分始めての上京ではありますし、こんな田舎と違つて、道も判り悪い事と思はれますので、御言葉に甘へて東京驛まで御足勞をお願ひしたいのですが、公務御多忙の御身で御座いませうから、何日頃上京すればよいものかと迷つて居ります、誠に恐縮ですが、御手明きの日を御洩らし下さいませんでせうか勝手な御願ではあります。何分宜しくお願申上げます。

同返事

先般御面會の折御話し有之候藥草販賣會社、愈設立の運びと相成り候由、寔に悦ばしき事と御祝ひ申上候。

其の事に就き愚見必要との事、身にあまる光榮と存じ候。汪生如き者の考へ

にて宜敷ば何なりと御申聞け下され度。日時は何日にも宜敷候へども、相成る可くは午前中がよろしからんと存じ候。日曜意外は勤務先きへ日曜は自宅へ御來車下被度、先は右取敢不御返事申上候。

【作例】 約一ヶ月餘御滞在中、私の勤めが忙しいものですから毎日ゆつくりと御話する事も出来ませず、誠に失禮致しました。どうか悪しからず御諒察の程御願ひ申します。愈々此度御歸郷遊ばさるゝとの事誠に御名残惜しう存じます。来る拾貳拾參の兩日休暇を得ましたから、拾貳日の朝から宿り掛けでゆつくり御出で下さい、お待ち申して居ります。私の方からお伺ひする筈ですが、旅館でお話し致しますより。むさくるしい處ですが私の家と思ひましてお待ちする事に致しました。失禮の處は御拜眉の節改めて御詫ひ申

上げます。

○何から何まで御氣付きの點感心致します。私の方は長らく當地に居りますから、一日や二日はどうとも成る事ですから、あなたの御都合のよろしき日に御遠慮なく御出立下さい。御乗車の折電報一本下さいませれば其の時間には間違なく御迎へに出て居りますから、私の方には御かまいません、どうか一日も早やく御上京あらん事を御待ち致して居ります。では亂筆乍ら失禮致します。此の次は東京でゆつくり御目にかゝりませう。

苦學の状態を問はれしに答ふ

通行禁止の制札は震災後の東京では珍らしくも有りませんが人生の行路には到る處に佇立禁止の制札ばかりであります。そのみでなく、矢鱈に大きな穴

や、溝ばかりで、少し油断をすると落ち込む心配があり、二六時中張り切つた心で張り切つた眼で、東西南北、何れの方面へでも唯進む一方、歩く一法であります。

さうした注意をして居てさえ、どうなり死ぬ迄の生活に、しがみついて行く事が難かしくなつて來たのです。

勉強は決して手段でやる事ではない事を、第一考へねばなりません、よく生活する。飽くなき慾を満たす爲めに勉強する勉強で無い事を知つて下さい。

私しが上京して既に十年を過ぎました、十年一日の如く未だに苦學生の域を脱する事が出来ないものですから、郷里の友人や、知人は相手にして呉れなくなつた私に上京の相談を受けたので、何と言つてよいのか一寸見當が着か

ないので。理窟や理想は捨て置いて現在の生活状態と勉學の様子の偽り無いところを、あなたの前に曝して、其良非、取捨は、あなたの判断にお委かせする事に決めました。

今私しは友人と二人で、室代月額二十二圓を出して居ます。郷里で二十二圓と云へば、立派な家が借りられますが東京では六疊と二疊の部屋で二十二圓を取られます。併し之れはまだ安い方なのです。そして二人が交替で自炊をやて居ます。外に風呂銭電車賃月謝などを入れて一ヶ月の總入費四十九圓の費用は、最低の費用です。

そうして二六時中、校服で一貫して居ます。頭は一ヶ月半に一回しか出来ないので。収入は夜間三時間半働らいて月三十圓(特に友人の家で稍寄附の傾

きを帶ふ) 其の他原稿や臨時収入で月二十四五圓はあります。

それで朝六時に起き、夜は九時半か十時まで、毎日〱繰返へして行くのですから、身體の疲勞は豫想外です。

普通學生が五年で遣る所を、苦學生は十年で成し遂げる位の繼續力と普通學生の約一倍半の勞力に耐へ得る耐久力が必要です。世の人が綺麗を飾る時でも孜孜として努力奮闘する心懸けが成くはなりません。

此の様な苦しみを嘗め、且つ忍耐努力して、若し志が途中で挫ける時は、健康を損じる時は年齢が半ばになつて、どつちも着かぬ人間とならなくてはならず。意義ある人生に、米食虫としての生涯に埋れなくてはならなくなるのです。苦學を志ざして後は困苦を此れ事として奮闘し、其の目的を達する者は殆

んどありません。そんな苦しみを毎日繰り返して、一度蹉跌を來たした時は世の敗殘者としての餘生を送らねばならない者が多いのであります。

一面素志貫徹と言ふ喜びの日を兎に角將來に樹て奮闘して行くのですから、其の成ると成らざるとに、論はなく其の道中は實に愉快なものである事は苦學する者が全部味はふ快感であるらしいです。けれども深く考へると、それは豫測するだけでありまして、何日來るのか、何年後に其の榮冠が得らるゝのかわからないものです。

それ等を順々に考へて來ますと、非常な大努力家か、或は大精力家でなくては到底成す事を得ないと思ひます。幾等書いても苦學生として、楽しい所はありませぬ此れだけに、耐へ得る自信と、一定の進路に向かつて絶へず勇邁する

確たる決心があるなれば、上京して苦學によつて人に成る事も至難ではなからうと、私は思ふのですけれども、此の多事多端な世の中に何がなしに生存して行く事もよく考へなくてはなりません。現代は實力で闘ふ世の中ですから片時の油斷で、落後者として敗殘者の苦痛を嘗めるのと、苦學を志して敗殘者となるのとを充分に考へる事が必要だらうと思ひます。つまり苦學十年の日と、實生活十年の日とを考へて、何れが人間としてよりよく生きて行けるかと言ふ點に注目して、採否何れとも御決心下さい。躊躇逡巡は、遂に永久の躊躇逡巡になつて生効ひの無い生活を終らねばならなくなる事も多い様ですから、何れとも決心次第直ちに實行に移られる方が當を得た策と思ひます。

斷定的の回答をする事が出來ませんでしたのは、實に申譯がありませんが、

どうか充分に考慮を重ね御採否御取決め下さい。餘は拜眉を俟つて委細御話し申上げます。

××君其の他へよしなに御傳へ下さい。では失禮を。

贈呈の部

作文上の注意

昔しからの禮儀だから、年末、中元には、何か持つて行かねば悪いだらうと言ふ様な、世間の見榮や外聞からする贈答でなく、本當の清い心持ちから、物を贈る事は實に嬉しい感じのするものである。

贈るべき品目、個數（これは書かない場合もある）及び贈與の意を書くので

ある。

一般の人に贈くる場合の文は真面目でなければならぬが、友人や同輩の間柄ならば、時に滑稽も洒落も書くのがよい。此の點はよく注意せねば間違易いものだ。

物を貰つた時の禮状は、充分に感謝の意を含まなくてはならぬのは言ふまでも無いが、あまり丁寧すぎるものも、相手を輕蔑する様になつたり。自分の品性を卑しくする様にもなるから留意すべきである。

贈くる方も、貰つた方も、眞情の籠つたものが一番よいのは言ふまでもない。名産物を送くる

丹波名物の大關、栗と松茸少量ながら御送りした。若し御口に適へば二度目

を送るから御請求下さい。柿も送りたかつたのだが、今年是不作番で、大きな柿の木に赤い實が、四ツか五ツしか着かなかつたので、秋祭りの土産にもする事が出来なかつたので、残念ながら來年にする。松茸の汚れて居るのは、特有の香りの消えぬ様との心遣ひ晩酌の下物にして、一本の處を二本飲んで妻君から御目玉を戴かない様に、でないと送つた僕が槍玉に上らねばならなくなるから、では左様なら。

【作例】名物には甘いものなしとか言ふけれども、此れ丈は實際に、淡い佳い味がある、二杯酢でも、鹽焼でも君の嗜好に調理して舌鼓みを打つて下さい。今日多摩川で獲れた鮎三尾、甚だ妙いが御目玉にかけ、奥様によろしく。

○不動様で名高い目黒の「筍飯し」聞いた丈けでも涎が出るだらう、僕も今年初めて目黒の筍を食つて見たのだが實際美味よ、運賃が高くなると僕の経済状態が動搖するので、懇だやかな範圍で送つたから本當に一本か二本だが、まあ我慢して呉れ。

○僕が田園生活をしてから二年あまり仕事が無いので今年は何色々々ものを作つて見た處が地味がよいのか腕がよいのか、御送りした様を見事な茄子に黄瓜にキャベツ、殊に春のキャベツは割合かたいものだが僕の手になつたのは、舌の上で溶けてしまふ程柔かで自慢効ひのあるものだ、晩餐の食卓を賑かす事を得ば満足だ皆さんによろしく。

○今曉四時、無事熱海着滞在一週間の豫定だ、名物梅干に味淋漬の新しい海魚

名高い熱海八景の繪葉書き取りあえず。印としてお送りした。貫一お宮の聯想でもして熱海氣分になつて呉れ、さよなら。

同返事

丹波栗と、丹波松茸どれもこれも思ひ出の種だ、夫婦で食べてしまふのは、あしかつたので、君が見知りの近藤君を始め郷黨七人僕の家へ集めて、珍品試食會を開いた、栗とん、栗めし、栗羊羹、栗納豆、土瓶むし、松茸汁、焼松茸等、鶏一尾、ビール二打、酒一升五合べろり平らげて腹を撫で、舌鼓みを打つたのはよいが、小林君の言ひ草が奮つてるからお知らせする。但し内密の事、君がこんな珍らしいものを送つて来るから、本月分の小遣を全部費つて、明日から風呂へも行けない。思へば松茸が癩の種だと、實際美味かつたので思

はず散財をやらかした。後二度でも、三度でも送つてほしい。

御両親も宜しく御つたへを願ふ。

寫真を送くる

鏡に寫つた顔を見ると、鏡の變る度に、顔も變つて仕舞ふので、一體俺の顔はどんな顔か見度くて仕方が無いので、わざわざ京都まで出張つて、大枚七圓九十錢の代價を拂つて、一流の寫眞師に、絶體に修正を加へぬ事を條件に掲つたのが別封の寫眞だ、どうだい、男振りは美男でなし。好男子でなし、何の邊の處だらうね、君の寫眞に比べると、何んだか心細くて仕様が無い。俺の方がずつと美男だと思つてお送りする。幾ら修正せぬと申出たとしても、斯く出来上つて見るともう少し直してほしい様な氣がするね、出齒で獅子鼻で奥眼で一

つとして取り柄がない、まあ疫病拂ひの魔除けの札にでもするがよからう。
若し人に見せるのだつたら、實體は今少し立派な男だと御披露を願ふ。

雛に添へて送くる

拜啓當春は御娘子様初節句の由。芽出度御祝申上候。其の後しばらく御目にかゝり申さず候處。いかばかりか御成人被遊れ、御樂しみの事と羨しく存じ候。さて御雛棚萬事整はせられ候事とは存じ候へども、京人形一對御祝の印までに進上いたし候間御納め下され候はゞ、本望の至りに存じ候。勿々。(農村青年夜學讀本)

菊花を贈る

拜啓 露を帯び、玉を宿す。秋の千草とは誰れやらが言つた言葉ですが、萬

草朽ちてあはれ秋も去らうとする時に尙霜に耐へた菊花僅かに未だ秋である事を知らして居るものです。支那人が菊の花を呼ぶのに、四君子の一としたのも無理で無い様に思へます。

去年の暮頂戴致しました。菊を培養しました。素人の手際としては案外よく出来ました。或は私の手際でなくて種を作られた、あなたの御手際かも知れません。何はともあれ、二株御覽に入れます。實際秋は百花燎爛の時期と申されて居ますが、何んと言つても此の花に越すものは無いと思ひます。實に芳香清姿、我が國の花として特殊の趣きが含まれて居ります。先は、菊花の添書き一條共に御覽に入れます。

都會より田舎へ物品を贈くる

拜啓過日は見事なる農作物、澤山御送り下され有難く御禮申上候。御丹誠こめられたる品々、家内一同久し振りにて頂戴致し候。事故、大賣行きの態にて愚妻はじめ女連は大多忙を極め申し候。毎々御手間の掛りし品のみ戴き申し乍ら便利なる都會生活をよそに、何日も御禮状のみにて相濟み申さぬ儀と深く御侘び申上候。

何かあれに匹敵の美味なるものと一家總出で商店街を探索致し候へども、之れぞと申す品も見當り申さず。營養美味を看板の「カルピス」一箱別送仕り候間、何卒御受納被下度。先は右御禮申上度如斯に御座候。勿々。

祭禮の供物を送くる

田舎の秋祭りと言ふと、毎年定まつたものだが、今年も去年と同じ様に、柿

に、柿に栗、松茸に「ゴミ」鯖のすしに餅。君が来て呉れるだらうと、お待ちして居たけれど、どうしたのか御來宅が無かつたので、落膽と供物とを御送りする。ごたくと美味ではないが、鎮守の森でならず太鼓は護國豊穰を祈る印だから、君の家の御榮えを祈つた印までに御納めを願ふ。

【作例】 神田祭りと言ふと帝都の中央を占める神田兒が、江戸兒の氣まへを見せるお祭ださうだ、震災後今年が初めてのお祭りだ、一通りの賑かさで無かつた。来て呉れるだらうと心待ちに待つて居たけれど、どうした事か到々御出が無かつたので神前に供へた別送の品、甚だ輕少だが印までに御送りする。皆様の御壯健御發展を心から祈つておいた。

梅の花に添へて

東風吹き初めて一句餘り世は何んとなく春めきて、長閑けきものに候。國見山の連峰にかゝる白雪薄らぎて、十里の麥畑け青く萌えて、追に春心地致され候。田園生活を致すものゝ氣分は、とても都人士の味ひ能はざる趣味あるものに候。麥の手入れに緻取る手も、自然に勇んで、天然を背景に繪中の人となる。其處に言ひ知れぬ美感に打たるゝ次第に候、こゝに御贈り致す此の梅の花は、斯く申す小生が、朝な夕な野良仕事に疲れては。此の梅の木の下に憩ひ、晝餉とても此の梅の下、廣き畑中の一本梅、自由に蔓ひ榮えて、今が花の最中にて、徑ち通る村人の足止め申し候事も稀しからず候。行き懸り來懸る旅人すら、一本梅の匂ひを衣に罩めて行く過ぐるもの、まして交遊淺からぬ君に、此の花觀せでなるべきかと今朝研ぎ澄ましたる鎌にて切り放し君が書齋に花瓶の料にも

と御目に掛け申候。自然の育ちを愛されなば。

僕も花も非常に光榮と感じ申候。尙御寸暇も有之候はゞ、田舎の初春のさま御覽に入れ度く御弟妹の方々御同伴にて托けて御來車御待ち申居り候。(模範的書翰文)

【作例】 降霜に堪えて、ほころび出づる梅の花、君が試験の前途を祝福する意味を含ませて進呈する、何かと準備勉強に忙がしい君が机の上に、君と俱に寒氣に堪へて咲く梅の花を見て、更らに最後の五分間を意義あらしむ可く、君が勇氣を奮ひ起して呉れたなら花も僕も満足です。

謝禮及謝罪之部

作文上の注意

此の種の手紙、人の厚意を感謝するものであるから、言辭に不足が無い様、不遜の嫌ひが無い様に、衷心から謝意を表す事が大切である、あまり鄭重に過ぎれば、わざとらしくなるから注意すべきである。

○謝罪の手紙は、自分の落度或は遠約の責を謝罪するものだから、其の約束の履行出来なかつた理由や、或は自分の失策を心から「わび」なくてはならない。

會葬の禮

亡父の葬儀相営みました時は、御多忙の中を殊に遠路をいとひなく態々御

會葬下さいまして、誠に有難う存じます。萬事不行届にて失禮致しました事は年若くして親を喪ひました。度迷ひの結果と御許しの程願ひ上げます。何れ御禮には罷り出でますが、忌服中、とりあへず手紙を以つて謹んで厚く御禮申上げます。

饗應になりし禮

一昨日は突然御邪魔致しまして、種々と御迷惑を掛け、其の上御手厚いおもてなしをうけ、久し振りに胸中の憂を拂ひ、すがくしい気分になりました。酔中定めて無作法な事も行つた事と、そのみ慚愧の至りに存じます。平に御許しを願ひます。酔歩蹣跚、歸宅しましたのは、午前三時でした。今朝九時酔餘の舌に甘露のしめりをくれつゝ、愚妻の強意見に、つゝしむ可きは狂水と、

今更ら新らしく悔悟の念に責められ候。とりあへず御禮状と認めましたのが、此の手紙、罪の無い男だとも許し下さい。御令聞はじめ皆々様へ然る可く御傳へ下れば大幸の至りです。

【作例】一寸来いとの御手紙を戴いて、どんな用かと御伺ひすると、先年來味はつた事のない御馳走に、つい箸の往來、盃の數が重なり過ぎて、とんだ失禮をして仕舞つて、今更ら慚愧の至りに堪へません。御家内も定めて御呆れになつた事と實際恥かしいですどうか君からよろしく言つてほしい、酒さへ飲まなければ、此んな眞面目な男だと、皆様へ素面の僕を紹介して置いて下さい。本當にいろく御馳走になつてすまなかつた。厚く御禮を申し上げます。

○四年振りで圖らず東京で遭つて、此んな嬉しい事はない其の後少しも様子が聞かれ無かつたので。どうしたのかと案じて居たが、思ひだに及ばぬ方向へ進まれて今日の地歩を占められたのは僕をして呆然たらしめる。其の節は御忙しい中を多大の御散財まで掛けて、何とも、御禮の申様も無い、どうか御閑の折は是非一度御來遊下さい。せまぐるしい家ですが、四年前と少しも變らぬ僕と僕の妻がある事を思つて枉げて御出を願ひます。

貫物の禮

昨日は誠に御手間のかゝりました珍品、澤山いたゞきまして有難う御座いました、此の品有り合せの物ですが他より到來致しましたので御覽に入れます。味はどうだか判りませんが御意に適へば幸いです。

【作例】 昨日は品川沖に網遊びの御催しだつたさうで、定めし御愉快な事で御座いましたでせう、私も是非御道連れ願ひ度いと思つて居ましたが突然裁判沙汰が起りました、どうしても留守にする事が出来なかつたものですか、心にもない失禮を致しました。どうかあしからず御許しを願ひます。扱て折角の御獲物澤山戴きまして、誠に有難う存じます。私しが御伴出来無かつた爲に貴下が一日の御獲物の大半を頂戴する様な事になつてかへすがへすも残念に存じます。貴下の御志し厚く御禮申上げます。其の内一度御目にかへりまして改めて御禮は申述べます。皆さんによろしく御傳へ下さいませ。

來訪を謝す

過日は團體旅行で御上京の御忙しい、御身體で、わざわざ御訪づね下さいまして有難う存じます。折悪しく勤務時間中でしたので御案内する事も出来ませず、誠に失禮を致しました。どうぞ御許し下さいませ、御覽の通り只今ではどうなり衣食住には事缺かず、生活する事が出来ますので、どうか御安心下さい。御申聞けの條々、深く心にこめて出来ないながらも努力致します覺悟で御座います。父母に御遭ひ下さいませ、現狀委しく御話し下さいまして安心致します様、御骨折の程伏して願ひ申します。先は右亂筆乍ら御禮まで。

【作例】 昨日は雪交じりの北風をいとわず、御來訪下さつて有難う僕は實際嬉しかつた。××中學で別れてから足掛け三年僅かに手紙によつて互の消息を得て居たが、どうして居る事かと案じて居た。今度突然神戸支店長に榮

轉てんされて赴任しゆにんの途次とそ、僕ぼくの爲ために此こんな山やまの中なかへ立ち寄よつて呉くれた何日なにひに變からぬ。君きみの友情ゆうじゆう、本當ほんたうに感謝かんしゃする。酒屋さかやへ三里さんり豆腐屋とうふやへ二里にりの山中さんちゆうで、折角せつかく來きて呉くれたのに、何なんのおもてなしも出來できなんだのが、何なにより遺憾いかんだ、どうか此これに凝こりず。折をりがあれば重ねかさねて來きて呉くれ給たまへ心待こころまちに待まつて居ゐる。

○謹啓きんけい陳者のぶれはご御多忙おたはちゆう中の處ところ。御親切ごしんせつにも態々わざわざ御來訪ごらいはう被下くだされ、又また其その節せつは結構けつかうなる御土産おみやげ戴あり難がたく御禮おれい申上まをしあげ。俸給ほうきゆう生活せいかつを致いたし居ゐり候身まの定めさだめられたる執務しつむ時間じかんの爲ため御多用おたようちゆう中ちゆうを長々ながく御待ごまたせ。仕つかまつり、何なにかと失禮しつれい勝ちだんちんの段奉だんちん陳謝ちんせ候まう先まづは右御みぎご侘わび。旁かたがた御禮おれい申上まをしあげ。一書いっしょ謹呈きんせい致いたし候まう。草々さうさう。

送別會そうべつかいに招まねかれたる禮れい。

謹つんで御手紙ごてがみ差し上げ候まう。今度こんど私わたししが社務しゃむを帶おびて滿鮮まんせん視察しさつの途みちに上のぼるに付つ

きまして、尊兄そんけいの御主ごしゆう唱なうにて營業課えいぎやくわ並びに各工場かくこうちゆう有志者ゆうししやによりて送別會そうべつかいを御催ごまよし下くだされ御懇篤ごこんとくなる御待遇ごたいぐうに預あづかりまして、實じつに身に餘あまる光榮くわうえいと感佩かんはいに堪たへません、さて本日ほんじつ午後八時ごちゆうはちじ二十分ふんの列車れつしやにて恙無つげなく旅途りょとに就つきましましたから、どうか御安堵ごあんご下ください尙恐なほおそれ入いりますが、御出席ごしゅつせきの諸氏しよし御一同ごいちゆうへ、厚あつく御禮おれい御傳ごたへ下くださいまする様御願やうおねがひ申上まをしあげ。追々おひく寒氣かんき烈はげしく相成あひなりますから、御健康ごけんかう御大ごたい切きつにお祈いのり申まをして居ゐります。

【作例】拜啓はいけい 一昨日いっさきじつは小生せうせいの爲ために、盛まかなる送別會そうべつかいを御催ごまよし下くださいまして、身に餘あまる光榮くわうえいと、深ふかく感謝かんしゃ致します。一々いちやく諸君しよくんに御挨拶ごあいさつ申上まをしあげる筈はずですが、時日じじつも切迫せつぱくして居ゐりますので其その暇ひまも有ありませぬ。失禮しつれいとは存知せんじませんが、一書いっしょを以もつて御禮おれい申上まをしあげます。身みは軍務ぐんむに服ふくさねばなりませぬが蔭乍かげながら

御會の御隆盛をお祈り申し上げます。

尙御面倒乍ら、貴兄より皆様へ宜しく御傳へ下さいます様、くれぐれも御願
申上げます。

○軍人として二年を營内で送る事は、男子としての義務であり、責任であり
ますのに、盛んなる送別の宴を催して頂きまして、深く感謝致しました、さる
上は諸君の御期待に背きません様、最善の努力をつくし奮勉致しまする決心
で御座いますから、どうぞ御安心下さい。かげ乍ら皆様の健康をお祈り申し
ます。

○家事都合によりまして、此度會社を辭し歸國するにあたりまして、盛大なる
送別の宴をお催し下さいまして、私の前途に幸あれかしと御祝ひに預り何と

も御禮の申様も御座いませぬ。私が入社致しましてより約六年不才の身を
種々御應援下さいましたのみならず、無爲の身を主任として、よく忠實に今
日まで、務めて頂きました事は、私の終生忘るゝ事の出来ない感深い事であ
ります。今去りますに當り貴下御一同様の御幸運と御健康を心より御祈り致
します。

盡力を受けし御禮

謹啓其の後は御無沙汰致しました平に御容赦下さい。私事御蔭様にて不相
變頑健にて奮勵いたして居りますから、幸ひに御安心下さいませ。扱て此度
愚弟が、商業學校へ入學致しまするに付き、種々御高配に預り、幸にも入學
致しましたとの通知に依りまして、委細承知致しまして、千萬有難く厚く御禮

申上げます。何分老人と子供のみにて毎々貴下の御面倒を煩はしまして、恐縮に存じます。尙今後とも誠に申兼ねますが、何分の御配慮被下さいます様偏へに御願ひ申します。参上御禮申上度いのですが、御承知の通り。山河遠く隔たりし任地に有る身は萬事意の如く成り兼ねますので、失禮とは存知ですが、手紙を以て厚く御禮申上げます。御家内皆々様へも宜しく、御傳へ被下いする様、重ねて御願申上げます。

【作例】 此度、私等村内青年が、××村青年倶楽部を設立致しますに當り、御多忙の御身を以て、何かと御骨折り下さいまして、御蔭様にて中老諸氏の反對を緩和して、幸にも實現を得ました事は我等一同厚く御禮申上げます。去る上は、同倶楽部設立の趣旨を守り、飽くまで村内青年の風紀を刷新して、

誇り得る青年團と相成ります様、全力をつくして、奮勉致す覺悟で御座いますから、どうか今後とも宜しく御指導下さいます様お願い申上げます。

○此度主家の許諾を得まして、獨立開業致す事になりました。在職中は公私共に一方ならぬ御厚情、御引立を受けまして、幸ひに素志を達し漸く一人前の商人と成る事を得ましたのは、貴下が御盡力の御たまものと深くお禮申上げます尙今後とも何卒御鞭撻の程伏して御願ひ申します。

○愚弟治郎 上京後、貴兄の御宅に御厄介に成つて居るとの通知に接しまして、委細承知致しました。

何日に不變ぬ御親切の程、何とも御禮の申様も御座いません。人一倍の變屈者ですから定めて御迷惑な事と存じますが、何分よろしく御願申します。

別送の品、誠に御恥かしい物ですが、田舎に出来ました割合に恰好よく出来ておりますので御送り致しましたが御笑納下さいませれば、幸甚の至りです。

○久しく御無沙汰を致しまして申譯も御座いません。先生始め奥様にも、御嬢様にも、御變りは御座いませんか、學年末で、さぞかし御多忙の御事と御察し申上げて居ります、さて昨年来、御手許に御厄介を願ひました弟あの通りの腕白者が此の頃は、すっかり様子が變り、又毎學年不成績續きで心痛致して居りましたのに此の學年は十番以内の席次に進み、いかにも學業が樂しみのやうに見受けられる様になりました。

學校や家庭の持て餘し者が、よくもあんなになつたと父も叔父も驚きました

やうな次第、これ全く先生御夫婦の御丹誠によること、私共兩親の喜びは譬へ様も御座いません。

本人の幸福は申すまでも御座いません。尙此の上とも十分御鞭撻下さいまして、御引立下さる様御願ひ申上げます。近々中に罷出でまして萬々御禮申上げますが取あへず手紙にて御禮申上げます。末ながら奥様へも先生からよろしく御傳へを願ひます。(鈴木氏)

金員返却の禮

先日は突然金子借用を願ひ出して、御多忙の御身で、御奔走下さいましたお蔭で急場の苦境を逃れる事が出来ました。厚く御禮申上げます。其の後早速御返金致す筈で御座いましたが、得意先さよりの送金意外に手間取りまして、漸

く一昨日着金致しましたので、使の者に持参致させましたから、御查收下さいませ、何れ其の内拜眉の上萬々御禮申上げますが、取敢不延引をお詫び旁御禮申上げます。

○獨立營業資金に困まり如何せんと思案にくれて居ました時、貴下が深甚なる御同情によりまして、盛大に開業致す事が出来ましたのみならず。御知己の人々に御紹介下さいましたので、其の後商勢益々盛んに成りまして少からず安堵致して居ります。今日では物品仕入にも現金を要せず。信用買となる事が出来ましたので其の節御融通下さいました資金も自然、銀行の帳尻に残る事が多くなりましたので一先づ御收めを願ひ度う存じます。私が親しく御拜顔を得まして御禮申上げ度うは存じますが。開店間も無い事で何かと用事

が御座いますので失禮ながら使の者に持たして遣ります、御受収め願ひ上げます。何れ夜分御伺ひ致しまして萬々御禮申上げます。

借用品を返す禮

拜啓先日は御秘藏の書籍を永々借覽致しまして、誠に相濟まぬ事で御座います。お蔭様で少なからぬ智識を得まして、厚く御禮申上げます。延引ながら今日持参致させましたから、御調べの上、御受取下さいませ。先は延引ながら御返上の御禮まで申上げます。

【作例】 拜啓一昨日急用にて御地方へ出張 仕り候處 俄かの大雨にて非常に困り居り候を御親切に雨傘御貸與被下、お蔭様にて用事も無滞く相濟まし豫定通り一昨夕歸京仕る事を得候も偏に貴下の御厚意によるところと深

謝奉り候。本日幸便を得候まゝ、御返上申上候間御落手被下度別包の品失禮乍ら御禮の印まで差し上げ候。御笑納被下度願上候。勿々。

○此の間井上君の處で例の駄辯に花咲かせてつい十二時近くまで話し込んだ、驚いて歸へらうとすると一寸先きもわからない。真暗闇で、思はずぞつとしたが負けあしみの強い僕の事だから、なかに提灯なんかいらぬよ。僕は男子だなんて威張り散らして君の家の側まで来たが、とう／＼堪まらなくなり、深夜君の家を起して御無心した。定紋付きの馬乗り提灯を手にして實際嬉しかった。今日幸便を得たので人だのみで失禮だが御返しする、何れ拜眉の節萬々御禮は申し上げる、皆様もよろしく御傳へ願ひ度い。

約束を破つた謝罪。

一昨日御面會の節昨日必ず御邪魔すると言つて置き乍ら、遂々失禮致しました。定めて御待ち下すつた事と、何とも御佗びの致し様も御座いませぬ。

實は昨日午前十一時頃御伺ひ致さうと身仕度の處へ、御存知の××君が訪づれて來ましたので他出の意を話したのですが、××君例の意地悪から、御輿を据えてどうしても動か無いので、無禮な奴とは思ひましたが、致し方なく貴兄の方は中止して、××君の發案によつて谷中の墓地へ遊びに出掛けました、譬へどんな事情があつたにしましても、一旦御約束した事を破りました罪本當に心苦しう存じます。定めて御立腹で御座いませうがどうぞ御許し下さいませ様伏して御願ひ申し上げます。奥様はじめ坊ちゃんによろしく御披露願ひ上げます。

【作例】拜啓先日は突然参上致しまして御無理なる御願ひ申出まして、早速御聞届け下され、有難く厚く御禮申上げます。扱て其の節本月末には必ず御返金致す様申して居りましたが、御存知の京都兼二商店からの送金が同店の都合によりまして来月十五日まで延期されましたので誠に申兼ねますが、其の日まで御猶豫下さいませんでせうか、御宅様にも御都合のありになる事とは存じますが、此の儀枉げて御承認下さる様切に御願ひ申上げます。

○一昨日は遠路の處御來宅被下れ、何の風情も仕らず失禮の段平に御許し被下度候、借て其の節御依頼の××商店振出しの約手額而参百圓の割引、御受合申置き候へども、實は昨日××出張所出火にて、豫期せざる損失を蒙り正金貳千圓程入用の旨昨夕電報にて申來たり候間、此際甚だ御迷惑な事と存じ

候へども、他に金融の道相講じ被下度御願ひ申上候。御都合の程折返し御返事被下度、相待ち申居り候。

一度御約束せし事を小生一身上の都合にて、違約仕る事實に苦痛に存じ候へども、別記事情御推察の上、相成る可くは別途金融御考へ被下候様伏して願上候。

○拜啓毎々御引立に預り厚く御禮申上げます。扱て先日御注文の植木鉢台二個特別入念の品との事にて二三、参考品を見學致しまして、製作にかゝりました處、今少し恰好の點に工夫を致し度う存じますので、誠に申兼ねますが、來る十五日まで御待ち下さいませんでせうか、始めから期日を切つての御注文でありますのに、今更ら勝手な話ですが、どうか御許し被下いまして、

御承諾下さいます様お願ひ申上げます。

借用品の汚損を謝す

先日無理にお願ひして拜借致しました。論語註釋、私の不注意から末弟が、一ニケ所汚がしました。何んとも申譯ありません。實は學校から歸宅しますと、今年七ツの茶目盛りの弟が、清正公の猿の様に、細筆で表紙裏へ、一寸五分程の棒を二本引いて、得意になつて居るのを見付けて、大變驚きました。もう書いて仕舞つたものを何うする事も出来ませず、誠に赤面の至りですが、どうか御許し下さい。決して粗末に取扱ひは致して居りませんでしたのに、斯うした事を御耳に入れる事は寔に心苦しう存じますが、幾重にも御わび申上げます。先は取急ぎ御詫ひまで。

【作例】一昨日拜借致しました小皿十人前の中手傳人の粗忽から二枚を破損致して仕舞ひました。斯く結構に揃ひました品物を、粗忽とは申し乍ら、瑕物と致しました事は、お詫ひの致し様も御座いませぬ。其の上勝手な御願ひでは御座いますが、残りました八枚のお皿と此の使の者が持つて参ります。品物と御交換願へませんでせうか。御大切な品物を傷つけた上本當に身勝手な願ひ致しまして誠に申譯も無い次第ですが、御聞届け下さいますれば、此れに過ぎた喜はありません。

どうか此度の儀、幾重にも御容赦下さる様お願ひ申します。

○昨日は御多忙中突然御伺ひ致しまして、長話しをして居りましたので到々雨に降り出されまして足駄を拜借しましたのは誠に恐縮でした。實は歸路道

路改修のぬかるみの中を危い足取りで歩いて居りました處、どう吸着いたも
のか左の足駄が泥濘に埋まり、どうしても取れませんでしたので、力一杯離さうと
する時、到々御大事な足駄の前鼻緒が「ぶつつり」切れて仕舞ひました誠に
不注意のところ幾重にも御詫ひ申し上げます。
甚だ潜越な事ですが、今日別の鼻緒と取替へまして御返上申上げますが、ど
うか御許し下さい何れ拜趨御面會の上萬々御詫ひ申上げます、どうか皆様に
よろしく御鶴聲の程御願ひ申し上げます。

諭告之部

作文上の注意

人を諭し戒める手紙には、目上に對する諫言のものと同僚交友間に於ける忠告と、目下に對する諭告等がある。

併し其の何れを問はず、人を諭し戒めると云ふ以上、對者の非行を戒め、過失を悔改めさすか爲めに、出されるものである事には變りは無い。

であるから、冷靜周密な理性によると同時に、温情を以て書くこと云ふ事が一番大切である。

同情が人類社會に缺く可からざるものである以上、此れが此の種の手紙の要諦でなければならぬ。

人は自分の非を充分知り盡し乍ら、尙且つ其の非行を悔める意志の力を缺く事が多い、斯る人に對しては、理性から、如何に其の理非を説いても、効果の

無いものだから、寧ろ衷心から出る涙の一語が、意外に對者を動かす事がある。戒めを嚴にして、温い愛情によつて書かれたものには、大概の人が反省力を取りもとすらしむ。

退學せんとする弟を戒む

今朝御手紙有難く拜見致しました。

折角中學の入學試験にも合格して、立派な成績で入學して置き乍ら、今更退學するなぞと、どうしてそんな考へが出たのです。御手紙の何れを讀んで見ましても退學せなければならぬと云ふ様な理由は少しも見出す事が出来ません。兄は絶體に不賛成です。それも家が貧しくて學資が續かないと云ふのなら強いて通學する事は御年を召された、御両親に御苦勞を掛ける事になるから退學も

萬止むを得ないと思ひますが、私の家としてはお前が中學校から大學校まで進むのに、決して苦しまなければならぬ様な状態にはありません。

又友人が、お前の成績の優秀なことを嫉視して、自分をいぢめるから學校へ行かないとは、何と云ふ氣の弱い事です。女々しいのにも程があるじやないか。若しお前が他日社會に出で、お前の計畫が機に乗じて、相當の成功を收めた時他の人が此れを嫉視して兎や角云ふ者があつた時、お前は實業界を引きますか、そんな事で、將來ある若者が、へこたれて居る様じや仕様がありません。反つて暴力に負けても、學生の本義である勉學の點で勝つ事を思ひなさい。負けるが勝と言ふ事があります。學生の意義を解せず、無謀の舉に出る對手が居れば、お前は彼に負けて居ないさ。

お前は孟母の教へを知つて居るでせう、學問を中止する事は、それだけ世の中の落悟者としての可能性が多くなるものです。そんな小さな事に頭を費す事は止めて、今少しお前の前途と云ふ事を御考へなさい。兄が、學校の先生に手紙を出す事は何んでもありませんが、そんな些細な事にこだはつて居る事は、お前の不面目であるばかりでなく、家の不面目となります。決して退學と云ふ様な事は考へず、どんく登校してお前はお前の長所を益々引き伸す様努力するがよいと思ひます。またそれ以上、不良學生がお前を壓迫し、お前の自由を侵害して來る時は、外に幾等でも、とる可き方法はありますから、そんな事に頭を痛めて無いで、身體を大切にしてお勉強して被下い。お父様やお母様には時節柄御からだを大切に遊ばす様、お前からよろしく傳へて被下い。

弟の不平を誠む

御手紙拜見致しました、御申越の條、一々御尤もな事だと思ひます。併し我々の兄弟は決して、他家の兄弟より劣つて居る點は少しもないと思ひます、むしろ他所の兄弟より或る點では一歩進んで居るのじやないかと考へられます。此れ以上を若し我々が望んだとするならば、それは餘程難かしい事だらうと思はれます、が大體人間と言ふ者は、得手勝手なものです。然し年が長じて來るに従つて、勝手な事はいつまでもして居られなくなり、(社會は共同生活なるが故に)色々と、こだわりを感じて來て、自他の觀念がハッキリするに従つて、斯うせなくてはならない。あゝしなければいけないと、追々嚴重になつて來るものと考へます。

然し之れも餘り徹底的なものではなく、所謂世間が許さない……といふ程度のもので止まつてゐる様です。で多く社會一般の兄弟の仲と云ふものも、やはりお互に得手勝手なものなのです。

之れもやはり、年が長ずるに従つて、彼れ、此れ、と考へて來るのです。所謂そうした組織と云ふものに、進歩と云ふ現象が現はれて來るのです。それが幼稚なもの集りはそれだけ、そのグループの人々は、不幸であるわけです。なぜなれば、進歩への途すがら、いろ／＼なものを元費するからです。我々の兄弟も、その進歩と云ふ方面から觀察して見ると悲しいかな、ある圈内を出づる事が出来ないものです。

長兄が精神生活の方面に或る宗教を發見して、盛んに聲を高くとした時代があ

りましたが、それも只長兄自身に僅かの進歩の現れがあつたものと思ひます。然し進歩して來たそのものが、甚だ幼稚なものである事を私等は感知する事が出來ますが、それ故、さかのぼつて、考へて見る時、それまでの幼稚さは、實に歎かましいものであると言はねばなりません。

私自身についても、實に恥かしい事ばかりなのです。つまり世の中の多くが、さうなのです。

此れは兄弟についての話ですが、親子夫婦にしても同じ事なのです。

かうしたものを組織してゐる、連がりが幼稚なものであれば、あるだけ、そのグループの人は不幸なのです。

組織體の進歩は、その組織の一分子一細胞が、それ／＼進歩して來なければ

駄目なのです。

親が子に接觸してゐる時、その氣分や性格は、誠に恐ろしい程、反映のあるものです。

子供が親の氣分を受け容るゝ事は實に恐ろしく、親たるものを、戦慄せしめるものです。たとへば親が

自分の心の缺點は、斯うだ、それを矯正しなければ、ならないと、よく自覚し注意してゐても、それが直つてゐない時は、親にそれを判別する力や反省する力があつても、直つてゐないまゝに、子供は受け容れて仕舞つてゐるものです。兄弟の間は親子ほど鋭敏なものでありませんが、先づ同じ様なものでせう。

つながりが深い、従つて愛と云ふものが、お互に深くなければならぬ間柄の者程、その影響は大と云へるでせう。お互の人格が如何に尊いものであり、心情の優劣が、如何に注意すべきものであるかを、私は痛切に自覺してゐます。けれども、自分の行にそれが完全に行ひ得られない心細さと寂しさを、いつも感じて居ます。

人間は弱いものです。

吾々の兄弟に決して愛が無かつたり、温情味がなかつたりするものではないのです。只その組織のつながりとなつてゐるものが進歩してゐないのです。

そうしてお互に、さうした不満さを無意識の間に持つてゐる爲めに、他人の愛に溺れ易く、本當のすぢみちの通つた愛を求めずに、どうしても弱者の群に

入り易い傾向をもつてゐる様にも思惟されるのです。然し之れも世間の多くが、さうなのです。

人間が完全な愛を求める、それが戀愛になり、道徳を求める事になり、宗教にすがる事になるのですと私は思つてゐます。愛、それは組織のつながりです。そして、おそらく、此の世の中に生れた人々にして、完全無缺の愛の下に、はぐくまれて来た人は、一人も御座いますまい。それ故に、いろ／＼な愛を理想として、生きて行く事も出来るのだと思へます。

また完全に近い愛をもつて、育てられて来た人程、世渡りが容易であつて強者の都に生活が出来るだらうとも云ふ事が出来ると思ひます。不良少年は弱者です。不完全な愛のもとに育つて来たものばかりです。

私等の兄弟をよくすると云ふ事については、云ふまでもなく、年長者程、その責任が今までに、重かつた事は、云ふまでも無い事なのです。

此れからはお互に自己の修養を云ふ事に留意したいと思ひます。

然し餘り窮屈に考へすぎて、心を狭めない事です。廣い心になつて、奮闘せなければなりません。

それから物事は何んでも、瘦我慢を押し通してまでも、やつてのけ様と云ふ様な氣持にならぬ事です。そうした心持ちは焦慮してゐる時に多いものです。からだを大切にして下さい。あまり心配をせぬ様、小さな事に氣を揉まぬ様にして氣張つてやつて下さい。母からもよろしく傳へて呉れとの事です、では、さようなら。

朋友の我儘を忠告す

此の間突然だつたが、君の家へ遊びに出掛けた。君は僕になんの通知も無く一月程前から現在の處に別居して居るさうだ。餘りに無情なやり方の様に思ふ。今まで再三僕の處へ寄越した手紙は皆偽りだつたのか。何が爲めに相談して來たのだ。そりや老人と若い者だから衝突は有つて然る可きだが、同じ若さで長い間交際した來た僕に今一度相談して呉れ無かつたのだ。聞けば大學の入學試験に落第して老父の叱言が氣に入らぬとの事で、今度の様な無謀を敢てした相だが、餘まり子としての道を踏み外してはゐないだらうか。此れには他にも事情があるだらうが、お年を老られた父上が、一人子の君に多大の期待を持たれて、君の成長を悦ばれた事を考へて見給へ、決して其の叱責が酷で無い事に氣

が付くだらう、自分の感情を主として考へねばならないが、對者によつては先方の感情をよく考へてから自己の感情に及ぼす事が必要だらうと思ふ。それも君が今まで中學を七年掛つたり高等學校を五年掛つて修業して來たのなら致し方も無いが中學時代も高等學校時代も共に特待生として、立派な歴史を持つ君が、今度大學の入學試験に落第したのは確かに父上のお立腹も故なくしてでは無いと思はれる。

如何に過去が立派でも、今の世の中はそれを認めない現在、將來が立派でなくしては何の價値も無いだらうと思ふ。どうか、一日も早やく、お父上の膝下に歸り緊張した生活を送くつて、來年の試験には、君の本質を發揮して呉れる様切に御願ひする、僕が此んな手紙を出して、君も不快だらう。が出す僕は更ら

に不快だから、今後こんな手紙を書く必要が起らない様御注意を願ひ度い。
繰返し君が今少しの忍耐と努力を以つて、總てを穩當に理解し、解決されん
事を衷心希望する、餘は拜眉の節萬事申し上げる。失敬。

筆不性の友を誡む

その人の境遇に同情して、熱誠を注いで書いた慰問に對し、その人から梨の
礫で、何んにも音沙汰が無いとしたならば、送つた人は、いゝ氣持がするだら
うか。

友人の無聊を慰めやうと思つて、真情を籠めて送つた手紙に對し友人から一
言半句の返事も無いとしたならば君はどんな心地がすると思ふ。

僅か一本の手紙を出すと出さぬとによつて、左右せらるゝやうな友情なら却

つて始めから友人なんかなくても好い、では世の中は渡れない。

時には對者の地位に立つて考へて見る事が必要だ。僕は將來筆不性だからと
いふ、出遭つた時の一言は、決して君の爲めに、多大の効果を齎らすべき言葉
ではない。

親しい間柄なら君が言はなくても知つてゐる、親しからざる人達なら、君が
言つても許すまい「一筆啓上火の用心、おせん泣かすな、馬肥せ」これ位なら
君だつて書け無い事は無い筈である。これ以上の虚言や贅言は、僕もまた要求
しない。しかし、この手紙に對して、返事をくれと要求するのではない。此の
手紙に對する返事は此の次に出遭つた時、僕は筆不性だからの御言葉で充分だ。
たゞ僕は久しい間の友人だから、君の筆不性もよく知つて居る。知つて居るか

ら君に手紙を出す時には、返事を豫期したことは無い。豫期しないのだから、返事が来なくとも、僕が感情を害する筈はない。

これ迄、返事が来ない爲めに、一回も感情を害した事は無い僕が、こんな手紙を出すのは、何故か、といふ點に氣がついてくれたら、それで満足だ（湯川氏）

裏切りたる知人を誠じ

遙々三百里の途を希望に燃えて上京されてから、今日で何日目であるをよく考へて下さい。微力乍ら僕としては出来得る限り周囲の交渉を應用して、君の發展を希願つて居たかをも考へて貰ひ度い。

僕は君に對しては、僕の内幕を惜し氣も無く曝け出して、今日まで來たのに、

君があんな不始末をやつて、東京を去つて行かうなどは夢にも知らなかつた。君が最初、僕を訪ねてから今日で三ヶ月、それに掛けられる丈の迷惑を人に掛けて、東京落ちを行つた事は初めから、僕を瞞すつもりだつたのかとも思はれるが、僕はそう考へ度くはない。君は衷心努力して居たが誘惑に負けたのだと思ひ度い。

君によつて受けた僕の損害は少くはないが、信じた君の爲めに受けた損失だから致し方も無いが、君が將來人と成る爲めには大きな暗い影となつてつき纏ひは爲ないかと、そればかりが心配だ。

年若くしてあれだけの才と働きを持つ君が、今少し自重して、確實な商業を初めると、必ず有望だらうと、噂せぬ者は無い。今少し社會を大きく廣く解し

て、君の天稟の長所を發揮せられる事を希望して止まない。

今後如何なる人の應援を得らるゝか知らないが、決して今度の様な不始末はせられぬ様、注意せられん事を望んで筆を擱く。御上京の節は御遠慮なく御立寄り下さい。

療養先きの妻へ

人の命は人の力で何うすることも出来ないものだ。病人が先に死ぬやら、丈夫な人が先に死ぬやら分らない。

命の事は神に任せておくより外はない。然し神に任せる前に、人の力で出来る丈けのことはしなければならぬ。

そこで醫者にもかゝる、薬も飲む、滋養物も食ふ運動もする。用心もする。

すべてに出来るだけのことをして置いて、それから先きの事は神に任せる。病氣ばかりでない何事も、その通り、自分の善いと思ふ事をして置いて、それから先きは神の指圖を待つ、自分の善いと思ふ事をして置けば、跡でどんなことが出来ても心苦しいことは無いよしどんな辛い事があらうとも、よしどんな悲しい事があらうとも、それも何かの神の指圖と思へば、ぢつとして心よくそれに従つてゐられる。さういふ風に考へて見れば、辛い中にも悲しい中にも、亦味が出て来る。人間は安心といふことが一番で、安心のあるものは、騒ぎもせず、怨みもせず悲しみもせず怒りもしない。安心とは自分がすべきだけの事をして其の跡を神に任かせた時の心持ちである。昔の武士は忠義を守つて、それで十分に安心して、平氣で切腹までしたものだ。不肖ながら利彦でも、守るだ

けの事は守つて、そこに安心して、平氣で貧乏や艱難に耐へる位の事はするつ
 もりだ。豫て落付いて淑やかなと云はれて居る。おみちさんなどは、此の安心
 といふことをよく／＼工風するがよい。自分の住んで居る家を綺麗に片付けて
 拭掃除を十分にして、庭も掃いて、表も掃いて、衣類も清潔にして身體の垢も
 よく落して、出来るだけ養生をして食べられるだけの物を食べて、髪や容にも
 氣を付けて、言葉を慎み我儘を言はず、勝手な事をせず、それだけにしてゐた
 ならば、必ず安心が出来るに相違ない。それだけにして置けば人に悪く言はれ
 やうとも、それは自分のせゐでないから仕方が無い。それだけにしても病氣で
 悪くなるのなら、それは此の身の逃れられない運命だから仕方が無い。何れに
 しても自分が招いたので無いから、只神の指圖に黙つて従ふより外は無い。神

は必ず悪くない様に導いて下さる。かう思ふのが即ち安心と言ふものだ。かう
 思つて安心して、氣を樂に持つてゐれば、人間が上品になつて、身體も自然健
 になつてくるに違ひ無い。もう止さう。鏡を見て自分の顔が善く見える時は、
 いつでも心の正しい時だ。心を正しくしなければ顔もよくならない。顔がよく
 なければ體もよくならない。
 何にしても心を正しく持つのが一番の事だ。お前が鏡を見て顔色がよかつた
 といふから嬉しくてならない。猶其の上にも心を正しくするためと思つて、
 圖らず長談議をやつた。昨夕は當直で社に居つた、歸りにビールを一杯飲んで
 善い心持ちでぶら／＼歩いて戻つた。(堺枯川氏)

雑文の部

作文上の注意

今まで書いて来た手紙の各部に入らなかつたものや、又何れの部にもつかぬ手紙を雑文として收めたが、此れも決して、無意なものでなく、親しい友や、我が成人を待つ父母の許へ、さては親戚や知人の許へ、時折のたよりは何れも意味の深いものだ。

旅先等から出す手紙には、云ふ事の出来ない親しさを受取つた人に與へるものだ。

多少長くなつてもよいから、よく意味の徹る様、景氣風土のわかる様書き度

いものである。

訪問日を豫告す

残りの雪の斑なるひまより、萌え出づる若草のつややかさ、山も野も長い眠りからさめて、再び活動の天地が開かれました。私も寒さに閉ぢ籠められて、折角の休み日も、大低庭の焚火を友として、あまり外へは出ませんでした。若い者にも似合ないとお笑ひになるかも知れませんが、實際老若を問はず、寒いのは耐えられません。兄さんも嘸管内で辛かつたでせう御無事で御座いますか、一度御面會に出かけようと思つてゐますが、あまり寒いのでつい延び／＼となりまして甚だ濟まない事です。次の日曜日には是非御面會に上りますから外出をせないで待つてゐて下さい。午前十時半までに御伺ひ致します。兄さんのあ

好きな「にぎりずし」を澤山持つて行きます。

恩師の許に送くる

爾來御無音に打ち過ぎ候處、如何渡らせられ候や。さて御暇申してより最早半年餘と相成り候。卒業後は明け暮れ家事に忙殺され、鋤鎌を友とし、夜間少閑を得ては國民中學會の講義録に親しみ申居候。之れ小生が近況にて有之候。今更ら學窓の往事を追想致し更らに又先生の御厚情を懐かしみ候ては眉間の御照影を拜して朝夕御風を慕ひ參らせあり申候。何は兎もあれ日頃の御教訓はゆめく閑却仕らず、聊か自信を持つて青年界に猛進仕度抱負を持し居り申候間。幸に御心易く思召下され度先は御伺ひ迄、寸箋捧呈仕り候。頓首。
(農村青年夜學讀本)

要件を兼て旅情を知らす

先便は酔中の妄筆御目をけがし、何とも恐縮の至に御座候。早速御挨拶に預り更にく恐縮いたし候。此の用意則ちいろよしに有之候。御目とめられて御一覽先頃の演説速記こゝまで持參に及び候へども未だ着手致されず、されど期日忘却は致さず候。小生は十五六日頃に一先歸宅致さばやと存居候。小生起稿のつもりにて參り候へども氣分すぐれ申さず、只雨にあひに參り候様の形にて只々因果の程を悔み居候。大弓は修善寺畔に宜しきがこれあり、昨日出懸け申候が、東京の達人は伊豆の弓にては一向當り申さず、をかしき事に御座候。寫真機械携へながら、雨のふりづめの爲め三枚よりは試み申さず近邊の舊跡等も尋問の暇を得ず、馬鹿くしき事に御座候。十五日前に御出下され候を得ば、

こんな喜ばしき事は無之候へども、私がこゝにゐて、あなたが遙々御出の事では、大概雨にきまつて申すべく候。もし此地にて拜眉の期を得ず候はゞ、歸宅の上直ちに御訪問申すべくと存居候。東京に歸り候へば、何や彼やと、日々目の廻る様に忙しく、此處に居候へば、唯ぶらりとあて事もなく世の中と申すものは、實に仕方のない物に御座候。東北の名所御遍歴の趣、御歌囊の富知るべしと御羨しく御座候。令閨に御鳳聲願上候。(紅葉山人)

久し振りにて父母に

秋冷日に加はり候へども、先以御機嫌好く遊ばせられ賀し上げ奉候。降つて不肖儀幸に無事、特に昨日の體格検査には豫て御心配相かけ候。例の胃弱も御指命どほり、運動と養生とに休暇中の全日數を注ぎたる効果にや全治と相見

え不思議にも强健と診断せられ候間、憚り乍ら御安心被下度候。追々燈火親むべき好期節と成相り候へば、是より更らに休暇中に鍛え上げたる忍耐と勇氣とを修學上に傾注し年末の試験には必ず級中の首席を占むべき覺悟に御座候。先日小包にて御郵送下され候品々有難く拜受致し候。秋風寒き此日頃寝冷え様にとの御心添なる腹巻も毎夜著用して用心いたし居候ところ、親子の間柄とは云へ、いつものながら、温き御情には感泣の外之なく候。幼時御手餘しの亂暴者も一旦遊學の身と相成候ては、今更らに斷腸の種のみ多くげにや我身一つの秋にはあらねど、照る月を見るにつけ、雁の音を聞くにつけ千々に思ひを碎きつゝ、家郷の空など眺めては窓洩る風に瞬く燈火を見守り板戸洩る山家の嵐に寢醒めし此身を憂ひ給ふ有り難さをしのび、錦と見まがふ山の邊の紅葉など眺め候

ては、錦衣歸郷の故事など思ひ起して學業に心を勵まされ候。末筆にて恐れ入り候へども、御兩親様には御壯健の御體質におはしまし、候ものの。御老體のこと故、何分御身體を御いたはり遊ばされ候様、蔭ながら祈り奉り候先は時候御見舞旁々段々申上度斯のごとくに御座候。(久保天隨氏)

繪葉書文

(1)

向ふの蒼黒い松林の上へ、赤煉瓦の西洋館が頭を出して居るでせう、あれは近頃出来た。××男爵の別荘だそうです。右手の方の野道が今度出来た新道で此の道が家の前を通つてくれたので、家の値段がうんと高くなつたと言ふ事です。やつぱり故郷は懐かしいでせう。

(2)

熱海中田屋の二階で今晝餐をとらうとする前一寸おしらせする。遠く水平線上に「ぼつり」と見えるのが伊豆七島の一左の突端が錦ヶ浦の雄景、風は涼し、浪は清し、一浴びあびて、湯に入る考へ、またの便りに委しく。

木曾路より

木曾路の春と言ふと何んだか、不思議な様に聞えるね、今月四月の末に、漸く梅の花が開きかけたのだよ。梅も櫻も杏も桃も、百花爛熳と云ふ字そのまゝだ。支那人は實に形容は甘いものだね。

「懐かしき木曾や四月の櫻狩り」

一代の俳聖、芭蕉も、木曾路の櫻狩りが四月だから大概驚いたものと見える。

僕は二度目の花見に、折角の起稿気分も、めちやくちやで、何一つまとまつたものが出来ず、木曾路の花で、ごちやくになつて弱つて居る。君も休みを作つて二度目の花見に是非来たまへ。

旅にある従弟へ

漂浪の旅に在る君が羨やましくして、秋風の吹く頃には何んでも彼でも此の暗い家を飛び出す心算で、ひた焦りに焦つてゐる間に又歳も一つ重ねて了つた。吾家で歳をとると云ふのが、何故か僕には不平でもあり、苦痛でもあつたが、今朝、清められた室で、誰れに遠慮もなく、母と二人で雑煮を食へながら、不思議にも「吾家」と強い懐かしさと楽しさがこみ上げて、倩々旅の君が可哀想になつた。餅も自由には食へまい。小包で送る。(土屋春窓)

雪の山家より

雪にくれ、雪に明けゆく此處山家、都の君には想像も及ぶ間敷候。殊に、昨夜より今朝に掛けての大降り、岡の松にも濤の絶え、谷の流れも眠りて響き無く、枕に落ち来るは小鳥の囁き、いとも静かなる天地に御座候。門に立ち出で候へば、目の届く限り眞白く、玲瓏たる銀世界、常盤樹にも些かの緑りなく、村を取圍む幾重の山は、玉の屏風を展べしに異ならで、常に見苦しき吾家も瑤臺に變じ候て、書を見るよりも美しく候。

都にて少しの雪降れば、二の字踏み出し候て訪ふ酒樓は、詩や俳諧に興を遣り、酒價の高さを問はずとやら吾が山村にては斯る風流は思ひも寄らず、狸汁位にて凌ぐが關の山、住めば都と申す謠も感心致し申さず候、されど十丈高さ

飛泉の、一夜に凍り候て、千條の玉の鞭、かぢけし手に息吹きかけ、小石取り
て試みに投げ中て、候はんか其の碎くる音勇ましく、男らしき遊戯にて、雪合
戦も今は古臭く思はれ候。(小宮水心)

歸省して都の友に

以前は山陰の僻村で、道は凸、凹、橋は丸木橋と極つて居たが、此の間の大
地震に懲りてか、道も田舎には珍らしい二間道路で、橋は立派な、板橋が懸け
られてある。

此の間僅かに、二年だが實に素晴らしい變り方だ。此の様に人も年々進歩向
上して行くのかと思ふと將來の世がどうなる事かと心配だ。何れを見ても思出
の種ならぬはなく小川の、せしらぎも、向山の雑木林も、昔と少しも變りが無

い。僕が腕白小僧時代を偲ぶのに、此れに上越す場所は無い。昔一の谷の戦ひ
で山傳ひに落ちて来た平家の落武者が、漸く山の間の狭い谷地に庵を結んだと
言はれる。畑村も今日では戸數約八十戸、人口四百五六十と云ふ立派な小字と
なつて居る。僕等の家のある所は丹生地と云つて、それよりも小さな村だ。何
んの古蹟も無く、書き立つる様な景色もない、低い山に圍まれて、村の端から
端までが、約二丁半ほどの山中だ。けれども、これが故郷かと思ふと見るもの
聞くものの完備した。都よりも落着いた氣分で、懐かしさは幾倍だか知れませ
ん。歸國の知らせに何んにも御紹介するものもなく、ほんの安着の報らせに
へて御氣嫌お伺ひ申し上げました。折々御たより下さい。皆さんにもよろしく。

はがき用文

歌留多會に招く

例年の通り来る五日午後六時から、歌留多大會を催すことに致しました。昨冬優勝のKM會員も參會する事になつて居りますから、令妹は勿論の事、知友の人達を御誘引下され賑々しく御來會の程を御待ちして居ます。

寒中見舞

寒氣烈しい折柄、御老体には定めし御難儀な事と拜察致して居ります。血氣の私でさへ骨身に徹る程ですから、十分御自愛が肝要と存じます。當方残らず壯健ですから、憚ながら御休心下さい。皆々様へ吳々もよろしく御傳へ下さ

います様御願ひいたします。

初夏通信

花を誇りし樹々の梢も、若葉青葉の新緑と代つて、五月闇に杜鵑鳴く初夏となりました。

初夏の都の状を思ひ浮べて、都のたよりを待つて居ります。初夏の都には定めて燕の様に飛び廻つて活動する人々が多い事と想像して、田舎の單調に飽いた様な氣持ちがします。憧憬の都會のさま何卒委しく知らして下さい。

二

雨毎に滴るばかりの縁を見せ、目も覺める鮮かな氣分を與へる新緑の世となりました。花時の騒々しさに引き換へて、此の新緑の落着いた眺めは、又一入

と感じませんか、元氣充溢する初夏の候に、生氣溢れる青年が寄り集つて語り合ふのも意義ある事と存じます。

梅雨見舞

毎日鬱陶しくよくも降り續くものと思はれます。何をするのも陰氣で、頭が重く一日ぶら／＼して居ります。平素から神經質な貴兄には定めて御弱はりの事と推察して居ります。どうか十分御自愛の程祈ります。私の方はお蔭様で貧乏息災に暮らして居りますから御安心下さい。

梅雨の都會より

享樂主義者は尙更ら、さうでない人でも此の梅雨が一番嫌なものでせう。晴間短く何うする事も出来ないので陰鬱な其の日／＼を、下宿屋の二階でくすぶ

つて居る。

田舎は定めて蛙の鳴聲が盛んだらうと、梅雨の糸雨に浮き出た××山を聯想してホームシツクになつて居る。

秋になつて

蒸し暑い都も、今は秋風の訪づれで、秋の装美々しい彼女達が、銀座の人混みをスイ／＼歩いて居るのを見ては、得も言はれぬ涼しさがこみ上げて來ます。二百十日も近付きましたが大荒れにならない様と祈つて居ります。

雪の田舎より

眞白い銀世界を梢から見下して居る雀の姿には何處となく淋しさが含まれる餌に離れた小鳥でも職に離れた人間でも、矢張り同じ様に苦勞があるものらし

いす。蟻は穴の中で雪も知らずに暮らすでせう。雪は清濁合せ呑んで平等に
總ての物を包んで居る。田舎の雪の朝は極く静かです。

留守見舞

晩秋の折柄、御主人には公務の爲め××地方へ御出張なされし由、御一同様
には嘸御さみしい事と存じます。何かの御用も御座いますれば御遠慮なう御申
聞け下さい。相變らすの俗事多忙で御見舞にも上りませす、失禮ながら、端書
で御伺ひ申上げます。

病氣見舞

其の後は御無音に打過ぎまして申譯もありません。昨今の御容態は如何で御
座います。追々御快方に向はせらるゝ事と存じますが、尙此の上入の御養生

一日も早く御退院遊ばされます様念じ上げます。何れ近日御邪魔致すつもりで
すが、不取敢はがきで御見舞申上げます。

同返事

懐かしく御手紙拜見致しました。何時も御見舞を戴くのみで申譯ありません。
秋風が吹く様になりました。追々快方に向ひ、此の分では遠からず御目にかゝる
事が出来やうと喜んで居ります。全快の上は必ず御邪魔して久し振りで御話し
承はるのを今より楽しみに致して居ります。先は御禮まで。

火事見舞

御地の大火、今朝新聞で見まして驚いて居ります。すぐにも駆け付け度い
ですが、何分遠方の事、如何あらせらるゝやと心も心ならず御案じ申して居り

ます。至急御詳報下さいます様、氣遣ひながら御見舞申上げます。

水害見舞

夜來の豪雨で、御地方も近年稀な大洪水との噂を耳に致しましたが、御宅様は如何で御座います。御被害などは御座いませんか、御怪我は如何で御座います。一同大變心配して居ります。詳細折返し御報らせ下さいます様心待ちに待つて居ります。先は右亂筆ながら御見舞旁々御伺ひ申上げます。

海村の避暑に

例の如く、例の所へ明後日より出掛けるつもりですが、貴兄にも御同行如何ですか、朝夕の涼風に心を柔げ、俗事を念頭から去つて海水に浸る等、夏ならでは知るを得ぬ気分であると思ひます。滞在は約四週間、午前中は讀書に耽る

豫定です、御都合御知らせ願はれますれば幸甚に存じます。

觀月に

沖空高く照り輝く秋の月は、雲のかゝるもよく、かゝらぬも又、眺め深いものであります。

明日川向ふの××樓で此の清澄なる月の光りを浴びて一盞傾け度いと思ひますから御迷惑でも明夕五時頃から御運び下さいます様御案内まで。

音樂會に誘ふ

先日入京を傳へられた樂聖シンバリストの獨唱會が明後日から報知講堂で催されます。幸ひ知人より入場券を貰ひ受けましたので、貴兄の御都合で一枚御裾分け致します。枉げて御同聽願へますれば、そんな嬉しい事は御座いませ

ん。

旅行先を報ず

例の癖で五日の夕、瓢然と家を出て、今日は××山の麓で旅館の二階に寝轉んで居ります。二三日滞在の後××方面へ出掛けるつもりです。山青く、大氣は静む山間の一村程自然に近いものはありません。何れまた機を見て感想をお報らせ致します。

轉居の報知

都合によつて以前の住居を引き上げて、表記の所へ移りました。間敷其の他は前の家に似たものですが、たゞ違ふのは周りにあるものが、青葉豊かな田圃のみですから、朝夕は誠に心持ちの良い事です。一度遊びに来て下さい、電車

は目黒蒲田の田園調布で降りればよいのです。

歸宅を報ず

永らく商用の爲め××地方を巡つて居りましたが、滞り無く用務を済ませ今日午前九時無事に歸宅いたしました。留守中は一方ならぬ御配慮に預りました。何とも御禮の申上様も御座いません。何れ兩三日の間に御邪魔して萬々御禮は申上げますが、とりあへず歸宅のお知らせまで。

講演會に招く

今般××氏の發起で帝大教授××博士の御來向をお願いして、家庭衛生學の講演をして戴く事になりました。来る六日午後二時から當町公會堂で開催致しますから、是非御繰合せの上御來聴下さいませ。様御案内申上げます。招待券

は當日受付けで此のはがき引換に幾枚でも御受取下さい。

在宅を頼む

拜啓、先日一寸御相談申し上げました件につき、至急御面會を願ひ度う存じますから明日午後三時頃御邪魔致しなすから、繰合して御在宅願ひますれば好都合と存じます。何れ拜芝の上萬々申上げます。

出産の報知

(一)

昨夜七時愚妻平産、望み通り女子を産みました。母と妻の満足は云ふまでもありません。子供も妻も至つて元氣ですから御安心下さい。

(二)

今朝二時玉の様な男子安産、母子ともに丈夫です。産聲高く泣く子供の顔は人の子供やら、猿の子供やら、一向見當がつかえません。何んど名前を附けたものでせう。

同返事

また坊ちやんだそうで誠にお目出度う。女でも男でも、子供の無いより餘程幸福だ。それより産後の御攝養が肝要だ。そのうち御祝に行く。

(二)

御安産の御報らせ只今落手致しなした。多々益々御目出度う存じます。御母堂はじめ御令妹達の御喜びは格別の事とお羨しう存じます。明夕愚妻と連れ立つて御祝に上ります。折角御攝養の程祈ります。

死去通知文に就て
死去通知のはがき用文は、手紙用文と殆んど同一であるから、本書中の死法通知を参考として應用せられ度い。

ペン字 挿入 これからの新書簡終

昭和五年三月拾一日印
昭和五年四月拾日發行

定價金六拾五錢

不許複製

入揮字ンベ
簡書新のらかれこ

發行所

東京市淺草區瓦町二十八番地
電話淺草四一七一番
振替東京一〇七三五番

國華堂書店

編者

手紙の友社

發行者

東京市淺草區瓦町二十八番地 山崎曉三郎

印刷者

東京市神田區今川小路一ノ四 小林美三

終



KOKKADO HAKKO